

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
小 学 部	【学校目標】 2) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① 普段の学習や体験的学習で、児童の意図的な発信（視線や表情、身体の動き）が増える。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	地域とのコラボで、様々な体験的な活動を実施しているのが良かった。 児童生徒の表出方法の記録については、紙媒体だけでなく ICT 等も活用して記録し、教職員間での共有をしやすいとはどうか。 今年度も、個別学習と集団学習において、児童の実態に合わせた授業を計画・実施できた。発信の少ない、または、わかりにくい重度重複障害児の指導・支援を常に工夫している。記録する方法を模索することで、教員の指導や教材の視点が明確になると思われる。 体験的な学習は、個々の児童の表情や反応がより明確だったり、以前の様子と比較すると落ち着いて参加できたりして有意義な時間であった。今後も、普段の授業の充実に加え、トピック的・体験的な学習も計画的に取り入れることが児童の成長につながると感じた。 今後も、児童の体調を優先しながら、学習内容を柔軟に設定・準備し、児童の学ぶ意欲に応えるために、日々の授業を工夫したい。
		活動計画	活動計画の実施状況	(評定)	
		① 全児童の学習場面での表出の様子や状況を記録し、ケース会や学部会で3回以上共有する。	① 訪問生を含む全児童の学習場面での表出の様子や状況を、ケース会や学部会で3回以上共有できた。	A	
		(所見)	教員が意識して学習場面での児童の受信や発信を確認することができた。また、普段の授業以外での体験的な学習場面での児童の発信の様子を教員集団で共有できた。 授業中の児童の反応の記録を工夫し、授業担当者での共通理解に活用できた。		
	①-1 外部専門家等との協議や発達検査の実施により、より客観的に児童の実態把握をするとともに、コミュニケーション方法の発達的变化についての知識を深める。	①-1 専門家のアドバイスや発達検査の結果を共有したり、「NISE 学びラボ」（動画配信）の資料を参考に重複障害のある子どものコミュニケーションを研修したりした。			
	①-2 児童の快不快等の表出方法について、児童一人一人の表出を教員集団で分析・記録するとともに教育的環境を整える。	①-2 「見る」「表情が変わる」「身体（部位）が動いた」等の反応を簡潔に共有できる記録方法を授業担当者間で工夫した。			
	①-3 体験的な学習を年間3回以上設定し、普段と異なる場面での児童の表出を確認共有する。	①-3 北小松島小学校児童や文理大学生、徳島ガンバローズ選手、徳島ヴォルティススタッフ、校外学習等、普段と異なる学習場面での児童の表出を確認・共有することができた。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
中 学 部	【学校目標】 2) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① 生徒の実態に応じて、人や物との関わりを広げることのできる体験活動の充実を図る。	評価指標 ① 「総合的な学習の時間」等において、様々な感覚等を活用できる体験活動を2テーマ以上、地域の人材を講師とした出前授業を2回以上行う。	評価指標の達成度 ① 「総合的な学習の時間」で、様々な感覚等を活用できる体験活動を5テーマ、地域の人材を講師とした出前授業を3回実施した。	1年間でたくさんの行事を行っていると感じている。体験学習や、人や物と関わる機会を多く設定し実施できている。今後も、引き続き活動を通して、学習を発展させ、ひのみね支援学校のことや多くの取組を地域に知ってもらうきっかけにしてほしい。 生徒にとって、人や物との関わりを広げる体験活動の充実の必要性や効果は実感できるが、4コースの生徒の「総合的な学習の時間」のねらいに応じた取組について、考えていくことに難しさを感じている部分もある。 集団活動を通じ社会性や人間関係を育む特別活動と、「総合的な学習の時間」における活動のねらいの違いを明確にすることや、自立活動との関連を踏まえた上で人との関わりを広げ、自ら選び、伝える経験を増やすこと等に、どのように取り組んでいくか等、今後の取組に際し、検討していくことが必要である。
		総合評価 (評定) A (所見) 本校では、今年度より、中学部・高等部の4コース生徒に「総合的な学習の時間」が教育課程に位置づけられた。中学部は「様々な感覚を活用したり、周囲の人に関わったりする体験活動を通して、主体的・意欲的に人や物に関わることができる」と目標設定し、計画・実施した。教育課程にはない病棟訪問生は、内容によって Zoom 接続や実物を持参して実施し、空気砲の活動を実施し、反応が顕著だった。 生徒の実態によっては、校外等へ出かけることが難しく、活動の制限もあるが、出前授業等により地域の方との関わりや新たな体験を広げることができた。パン作り体験後、地域のベーカリーへ買い物に行ったり、空気砲出前授業後に的や空気砲を作り、文化祭の催しでゲームコーナーを出店したりと学習を発展させることもでき、興味・関心を広げることができた。		
	活動計画 ①-1 個々の生徒の実態に応じ、聴覚、触覚、嗅覚、味覚、視覚等の保有する感覚を活用した体験学習を計画する。	活動計画の実施状況 ①-1 感覚を活用し、出汁やフルーツの香り、藍染めの香り、リズムカルなダンスの動きや曲、パン生地の手触りや焼き上がる香り、空気砲の空気圧等を感じる体験学習を計画・実施した。		
	①-2 他学部の友達や教員、地域の方等、様々な人々と関わる機会を設ける。	①-2 新たに他学部の友達や教員と関わる機会を設けることはできなかったが、中学部の他クラスの友達や教員、また出前授業講師や四国大学ダンス部学生等の地域の方と関わる機会を設定できた。		
	②-1 「総合的な学習の時間」の目標や育成を目指す資質・能力等の共通理解を図り、個々の生徒の目標を設定する。	②-1 学部会等で、本校の「総合的な学習の時間」の目標や育成を目指す資質・能力、中学部の目標の共通理解を図り、個々の生徒の目標を設定した。		
	②-2 生徒の姿を多面的に捉えるために、学級担任等複数教員で、学習評価を行う。	②-2 学習評価場面での話し合いは十分に行えなかったが、担当教員による評価を、複数教員で共有した。		

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>【学校目標】</p> <p>3) 家庭・地域・学校が一体で取り組む教育の推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 地域と連携した学びや体験活動を通して、生徒の社会性や自立心の向上を図る。</p> <p style="text-align: center;">高 等 部</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>地域連携活動を年間計画に位置づけ、さらに学部間で情報共有しながら計画的に実施する。また、学校運営協議会を活用するなど、地域との関係を維持・発展させながら進める。役割分担や事前学習を工夫し、生徒が目的をもって参加できるように支援することで、主体性や自己決定力の育成を図る。あわせて、授業前に環境設定や支援方法について教員間で共通理解を図り、共通スキルとして共有・蓄積することで指導の質を高め、写真や記録、振り返りシートで成果を可視化し、評価改善につなげる。</p>
	<p>① 地域と連携した活動を年間5回以上実施し、その中で1人1回以上働きかけができ、生徒の社会参加意欲や実践力が高まる。</p>	<p>① 地域と連携した活動を年間12回実施した。地域でのゴミ拾い、エンカル啓発活動、乳児院交流、交流及び共同学習、ポッチャ大会など、複数の取組を計画的に行うことができ、1人1回以上地域活動に参加ができた。地域の人と関わる経験を重ねることで、社会参加意欲や実践力の高まりが見られた。</p>	<p>(評定) A</p> <p>(所見) 地域と連携した多様な体験活動を実施することができ、生徒の社会参加や自立に向けた意欲の向上が見られた。また今年度は、「総合的な探究の時間」で取り組むことによって、学部全体での意識の向上につながった。特に啓発活動や交流において、生徒が主体的に関わる姿が増え、教育的効果が高まったと思われる。一方で、生徒の参加回数や方法に違いがあるため、全生徒が十分に活動できる体制作りを考える必要があると思われる。</p>		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①-1 ゴミ0運動に取り組み、地域への貢献意識を高める。</p>	<p>①-1 ゴミ0運動を2回実施した。事前・事後学習を通して、清掃や地域への理解を深め、地域美化への貢献意識が高まった。</p>			
	<p>①-2 エンカル啓発活動を通して、地域の人への発信力や主体性を育む。</p>	<p>①-2 商業施設等で啓発活動を4回実施した。生徒が積極的に来場者に声をかけたりチラシを配ったりする姿が見られ、主体性や発信力の向上につながった。</p>			
	<p>①-3 乳児院との交流を通して、季節行事やレクリエーションを行い、他者への共感や思いやりを育てる。</p>	<p>①-3 乳児院交流を3回実施した。レクリエーションや行事を通して互いに訪問を行い、他者を思いやる態度や共感的な関わりが育まれた。</p>			
<p>①-4 4校合同交流及び共同学習(城ノ内中等教育学校、小松島高校、小松島西高校、本校)を通して、共生社会の理解を進める。</p>	<p>①-4 年間2回、同世代との作品制作や障害者スポーツなどの交流を通して、相互に尊重して認め合う共生社会の理解が進んだ。</p>				
<p>①-5 特別支援学校ポッチャ大会を通して、協働する力や達成感を育てる。</p>	<p>①-5 11月に開催された大会に参加した。協力する力や挑戦する態度が育ち、達成感を味わった。</p>				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 ① 緊急時や災害時における組織体制の充実や避難態勢の整備を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	避難訓練について、今年度初めて告知なしの火災避難訓練を行ったことは、消防本部としても推奨していることであり、今後も継続してほしい。避難訓練の実施について、協力できる。必要であれば、声をかけてほしい。 アンケート等より、良かった点は継続したり、反省点は改善したり、次年度もブラッシュアップした防災研修や訓練が実施できるように計画する。告知なしの火災避難訓練は好評であったため、次年度も一定期間を設けて設定したいが、どうしても設定期間に後から様々な行事が入ってくるため、設定期間の長さや時期を検討する必要がある。
	① 教員の80%以上が、研修や訓練等を受けて「防災意識が高まった」とアンケートで回答する。	① 54名の教職員対象にアンケートを実施し、「防災意識が高まった」と100%の回答を得ることができた。	(評定) A	
	② 参観日に実施する避難訓練に参加した保護者の80%以上が本校の避難態勢に「満足」「やや満足」と回答する。	② 9名の保護者から回答があった。複数の見学ポイントで様子を見学していただき、災害時の対応について89%(8名)の保護者が「満足」「やや満足」と回答があった。1名は「ふう」との回答だった。	(所見) 教職員対象の防災意識に関するアンケートより、9月の体験型校内防災訓練が印象に残ったとの回答が一番多かった。告知なしの火災避難訓練は、避難経路や自分の動きなどを考える機会になり、緊張感があって良かったとの意見があった。例年の訓練をブラッシュアップすることで、具体的な想定をすることができたといった意見が多くあった。 また、参観日の避難訓練については、参加した9名の保護者全員が参観日に避難訓練を実施することに対して「よい」との回答であった。 緊急時や災害時に備えることで、安心・安全な学校づくりの一助となったと言える。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①-1 防災研修を2回以上、「災害安全」に関する訓練を5回、「生活安全」に関する訓練を1回計画し、11月までに実施する。	①-1 4月・9月に防災研修を実施した。初期消火訓練3回、火災避難訓練2回、地震・津波避難訓練、風水害・引き渡し訓練、不審者対応訓練を予定通り11月までに実施できた。		
	①-2 毎月の学校安全の日に防災計画等の一部や防災に関する情報、職員の個人備蓄の準備等の内容を掲示板にあげて啓発する。	①-2 避難訓練に関する防災計画等の一部や、時事に即した防災や備蓄に関する情報や啓発内容を掲示板にあげて、防災意識の向上を図ることができた。		
	①-3 外部から専門家を招き、発災時の避難に関する研修を実施する。	①-3 徳島文理大学柳澤幸夫教授を招聘して研修を実施した。本校の実状を踏まえた研修内容と安全な避難についての様々な体験ができ、参加した教職員から、今後に生かすことができる研修だった、と多数の感想があった。		
	①-4 2回目の火災避難訓練を1週間程度の期間内に告知なしで実施する。	①-4 11月に4日間の期間を設け、コンセントからの漏電で火災報知器が作動した設定で、告知なしの火災避難訓練を実施した。		
①-5 計画した研修や訓練(①-1)が終わった後に教員向けのアンケートを実施する。	①-5 11月中に54名の教職員を対象に、防災意識と印象に残った防災研修や訓練についての意見を聞くアンケートを実施した。			
②-1 6月の参観日に高潮風水害を想定した避難訓練と引渡し訓練を実施し、災害時の教員の動きや児童生徒の動きがわかりやすいように工夫する。	②-1 警報発令後の対応や状況が落ち着くまでの対応を時系列で段階的に設定し、保護者に見学ポイントを伝え、自由に避難訓練を見学できるようにして実施した。			
②-2 保護者の意見を聴取するため、見学のポイントを記載したアンケートを訓練前に配布して実施する。	②-2 玄関での受付でアンケート用紙を配布し、訓練前にアンケート内容を見て訓練見学をしてもらうことができた。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>【学校目標】</p> <p>2) 学習指導の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 児童生徒の実態に応じた教科指導等の授業づくりについて思考を深める。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
	① 教育課程研究集会の内容を元に行う各学部での伝達講習とワークに、80%以上の教員が参加する。	① 各学部毎に伝達講習を実施し、参加率は、小学部95%、中学部90%、高等部95%であった。ほぼ全員(94.4%)が参加し、ワークにも取り組めた。	(評定) A		
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>(所見)</p> <p>毎年行われている教育課程研究集会を起点に、伝達研修・希望研修とつなげることができた。伝達研修に向けて、教務課員全員が研究集会に参加し、学部へ伝えるという活動計画により、重点目標に対する課の意識が高まったと思う。また、希望研修に参加した教員が多くいたことも、「学びたい」「よい授業をしたい」という気持ちの表れではないかと捉え、学校目標の達成に向けて共に学んだり考えたりできる教員集団を実感することができた。</p>		
	①-1 教育課程研究集会に参加し、重点事項や新しい知見を確認する。	①-1 各学部の教務課員が、オンラインでの教育課程研究集会に参加した。			
①-2 教育課程研究集会伝達研修(校内)を各学部ごとに行い、重点事項や新しい知見を学校全体で共有する。その際、本校(学部)の実態を踏まえたワークを取り入れる。	①-2 各学部に分かれて伝達研修を行った。本校の教育課程や授業の実態を踏まえながら教育課程研究集会で取り上げられたワークを行い、教員間で対話しながら知識や理解を深める時間を設けた。				
①-3 研修後にアンケートを実施する。	①-3 研修内容についての設問では、「新たな知識が得られた(55.5%)」「これまでの知識を再度確認できた(37.0%)」の回答があった。自由記述では、「単元計画が大事であることが分かった」「グループワークで、より伝達研修の内容が深まった」「最新の情報や実践例など参考にできる内容を聞いてよかった」等の意見があった。				
①-4 アンケートで挙げた質問についてまとめた後、希望研修を企画し、参加者が一緒に熟考したり協議したりする中で学びを深める。	①-4 アンケートで具体的な質問はなかったが、「単元について知りたい」という希望があったため、希望研修「単元計画と単元づくり」を企画した。24名が参加し、育成を目指す資質能力の3つの柱・各教科の見方考え方・観点別評価についての知識を再確認し共有した後、3～4人の小グループで、1、2学期に行った単元を単元計画として書き表すワークを行った。「単元目標の整理や授業展開の振り返りができた」「授業について先生方と話し合うことができてよかった」「考えれば考えるほど難しい」「もっと実例が知りたい」等の意見があった。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 4) 教職員の専門性及び授業力向上と働き方改革 【下位組織レベル】 ① 個別の指導計画（自立活動）を基軸とした自立活動の指導の充実を推進する。	評価指標 ① リフレクションミーティングを行うことで指導すべきことが明確になったり、情報共有できたりしたことにより、自立活動の指導が充実したと全教員の80%以上が回答する。 ※リフレクションミーティング ビフォー会にて指導上の共通理解や検討事項について話し合い、その指導結果をアフター会にて確認したり検討したりする授業改善に向けての話し合い。	評価指標の達成度 ① リフレクションミーティングを行うことで指導すべきことが明確になったり、情報共有できたりしたことにより、自立活動の指導が充実したと教員の86%が回答した。	総合評価 (評定) A (所見) 自立活動の指導は複数の教員が担当しているため、外部専門家の助言や授業を行いながら気づいたノウハウを共通理解したり、指導に関する疑問点等を他の教員と話し合ったりしたことが授業改善につながったと考える。 ただ、あまり思わないと回答した教員が14%いたことは、教員によっては知り得た情報等を活かしくかたと思われる。教員の経験年数による違いも考慮する必要があった。	教職員の専門性や、授業力向上に努めてほしい。	リフレクションミーティングをより授業改善を図れるものにするために、教員の経験年数による違いを考慮し、各教員の専門的な自立活動に関する知識や技能を研修で高めていく必要がある。研修は行ってはいるが、今後は研修の仕方等を協議形式や実践形式を取り入れながら、学んだ知識や技能を活用していくことのできるように工夫していく。 もう一つは、リフレクションミーティングで得られた情報を自分の授業に活かしていくことができるようにメンター制度等を活用しながら、授業場面で周りの教員が実際にやって見せたり、コツを伝えたりするサポートを行う必要がある。リフレクションミーティングでの話し合いをきっかけとして、授業者同士でお互いに支え合いながら児童生徒の指導を進めていく取組を推進していきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①-1 リフレクションミーティングを進めにくいグループがあれば、研究課がそのグループに対して2回以上相談に乗る等のサポートをする。	①-1 質問に答えることはあったが、相談等はなかったため行っていない。教員向けの校内電子掲示板でリフレクションミーティングの一例を紹介した。			
	①-2 個別の指導計画（自立活動）の作成に関する研修会を企画し運営する。	①-2 実態把握や課題関連、指導内容等に関して6回実施し、のべ63人の教員が受講した。			
	①-3 全教員に自立活動に関する資料を5つ以上、データまたは紙媒体で配付する。	①-3 自立活動指導内容表一覧や個別の指導計画（自立活動）ミニ研修に関する資料を、データ等で12回配付した。			
①-4 リフレクションミーティングで取り組んだ自立活動の指導を共有するために、年度末に報告会を開く。	①-4 学部別で報告会を実施した。報告の後、グループ協議を行うことで、報告された事例について話し合う機会を設けた。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>【学校目標】</p> <p>3) 家庭・地域・学校が一体で取り組む教育の推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 家庭・地域・学校が協力し、人権教育やキャリア教育の推進を図る。</p> <p>人権進路課</p>	<p>評価指標</p> <p>① 人権教育やキャリア教育についての理解が深まったかのアンケートを生徒、保護者、教員それぞれに応じた内容で行い、80%以上の肯定的な回答を得る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 人権教育では人権コンサートを通して「今まで知らなかった、歌に込められた気持ち等がよく分かり、人権に対する意識が高まった」等、保護者、教員ともに85%以上の肯定的な回答を得ることができた。キャリア教育については、身近な内容を取り上げることによって、自分のこととして捉えることができたとの肯定的な回答を生徒から得ることができた。教員からは90%以上の肯定的な回答を得ることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 人権コンサートを通して、普段口ずさんでいる歌にもいろいろな人権的意味合いがあることを改めて知る機会となった。また、本校の進路について研修をすることにより、保護者や教員も進路について考えたり、施設の情報を共有したりする機会となった。 また、ストレスや初めての人と話をする事等、高等部の生徒にとって身近な課題について、外部講師に授業をしてもらうことで自分の意見を伝える良い機会となった。こころの学習では「今の自分のことだ。ためになった。」「卒業後に役立ちそうだ」等、自分事として捉えることができた。 キャリア教育支援プログラムを活用しやすいように様式変更の作業をしており、会議等での説明はできていないため、授業等でキャリア教育の視点を持った授業展開に活かすことができなかつた。今年度中に様式変更の作業を完了させ、来年度から活用できるようにする予定である。</p>	<p>卒業生や保護者の声を聞くことができる進路説明会を今後も恒例化し、保護者への早期情報提供をお願いしたい。医療的ケアが必要な子どもの進路先が少ないので、保護者や色々な機関とも連携して、当事者の声を伝えていくことが社会を動かすことにつながる。</p> <p>家庭・地域・学校が一体で取り組むことができるように、施設情報等を保護者に提供していきたい。また、小学部段階から進路について考えていくことができるように、本校の高等部の生徒の取組を保護者に知っていただく機会を設けたり、学校運営協議会と連携し地域との関わりを深め、児童生徒が積極的に関わる活動を進めたりできるように計画する。 キャリア教育支援プログラムを活用しやすいように変更し、キャリア教育の視点を持って、児童生徒が授業や地域での体験的な活動に取り組むことができるようにしたい。</p>	
	<p>活動計画</p> <p>①-1 高等部において、外部講師によるキャリア教育や、スクールカウンセラーによるこころの学習等による授業を学期に1回行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 6月のテレワーク実習や1月の徳島大正銀行による「金融」についての出前授業を行った。また、こころの学習は、7月に「ストレスとは」、12月には「初めての人と話をすることについて」の学習を行った。生徒自身身近なこととして捉えることができた。学期に1回以上外部講師による授業を行うことができた。</p>			
	<p>①-2 「みんなでいじめ問題を考える日」として、児童生徒全員がいじめの理解・啓発活動に取り組む機会を設け、活動した内容をまとめ掲示をする。</p>	<p>①-2 12月17日に学部ごとに実施し、「友だちや誰かと一緒に活動して笑顔になれる瞬間」についてそれぞれカードに書いて伝え合った。まとめたものを廊下に掲示した。</p>			
	<p>①-3 保護者対象に人権研修や進路に関する研修、教員対象に人権研修やいじめ防止研修、進路に関する研修を行う。</p>	<p>①-3 PTA研修として9月16日に西本篤人氏による人権コンサート、2月3日に本校の進路指導についての研修を行った。教員対象として職員会議後に「いじめ防止ミニ研修」「人権教育ミニ研修」、1月29日に「本校の進路指導について」の研修を行った。</p>			
	<p>①-4 キャリア教育支援プログラムの活用方法についての説明を職員会議等で行い、授業を行う際の視点として持つことができるようにする。</p>	<p>①-4 キャリア教育支援プログラムを活用しやすいように様式変更の作業をしているため会議等での説明はできていない。</p>			
	<p>①-5 校内実習や就業体験の振り返りを他学部の教員や児童生徒が見学できるようにし、卒業後を見据えた視点を持つことができるようにする。</p>	<p>①-5 校内実習の様子を中学部の生徒や他学部の教員に見学してもらい、生徒のがんばる様子や施設の様子を見てもらう機会を持つことができた。また、校長室前掲示板に実習の様子を掲示することにより、保護者にも実習の様子を見ていただく機会を持つことができた。</p>			
	<p>①-6 外部講師による授業や研修の様子をホームページや人権進路通信「花みずき」に掲載し、校内の取組を発信する。</p>	<p>①-6 薬物乱用防止教室、キャリア教育出前授業、人権コンサート等での様子をホームページや人権進路通信を通じて取組を発信した。</p>			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 3) 家庭・地域・学校が一体で 取り組む教育の推進 【下位組織レベル】 ① 体育祭・文化祭での体験的 な活動の充実を図る。 ② 作品展「ひのみねからの発信」 の充実を図る。	評価指標 ① レクリエーション大会とした体育祭と 文化祭の鑑賞活動において、教職員と保 護者アンケートを実施し、肯定的な回答 を80%以上得る。	評価指標の達成度 ① 体育祭と文化祭のアンケート結果では、 どちらも90%以上の「よかった」との回 答を得た。	(評定) A	文化祭前日祭の参観を通 じて、学校の実施している 多くの取組を知る良いきっ かけとなった。このように 地域の方々にも、学校のこ とをさらに知ってもらう機 会があればと思う。 また、「ひのみねからの 発信」はとても良い取組で あると感じている。ぜひ継 続していただきたい。	レクリエーション的な活動へ と形式を変えた体育祭は、来年 度で3年目を迎える。小学部・ 中学部・高等部と、年齢や体力 に差がある児童生徒全員が参加 でき、個々の力を表現できるよ うな個人種目を新たに考案する ことが課題である。 今年度行った全ての行事にお ける運営方法・方略を基礎とし、 さらに児童生徒一人一人が 十分に持てる力を発揮できるよ うに運営していきたい。
	② 「ひのみねからの発信」の作品展示で、 得られるアンケート数が、昨年度より30 %以上増える。	② 昨年度のアンケート件数が7件であっ たのに対し、今年度は83件の回答を得た。	(所見) 全ての行事に特別活動課 員一丸となって取り組ん だ。どの行事も教職員の協 力を得ることができ、円滑 な運営をすることができ た。 体育祭では、昨年度の反 省を活かし、個人種目で新 競技を考案した。また、集 団種目を精選し、すだちく ん体操と何色アウトの競技 を実施した。このことによ り、児童生徒のたくさんの 笑顔が見られ、充実感を得 られる体育祭となった。 文化祭では、「鑑賞ビン ゴ」を実施しただけでなく、 共同制作ができるワークシ ョップも行った。1週間の 実施期間としたことによ り、児童生徒がゆとりを持 って鑑賞活動に取り組むこ とができた。 「ひのみねからの発信」 の作品展示では、昨年度の 課題であったアンケートの 回収率を上げるため、2次 元コードと紙媒体でのアン ケートを併用した。紙媒体 でのアンケートが集計の9 割を占めた。紙媒体のアン ケートを各テーブルに配置 したことが回収率の大幅ア ップにつながった。アンケ ートには毎年楽しみにして いる方が多数おり、地域と のつながりを感じた。 やまなみ珈琲店のスタッ フが選ぶ「やまなみ賞」を 導入し、表彰することで、 児童生徒の作品制作への意 欲につながった。		
	活動計画 ①-1 体育祭では、子どもが充実感を得ら れるような、集団種目と個人種目を設定 し、体験的で活動的な種目を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 体育祭では、児童生徒に親しみのあ る集団種目「何色アウト！」と魚釣り体 験を取り入れた個人種目「ひのみーフィ ッシング」を設定した。			
	①-2 文化祭では、校内に展示した全ての 作品を鑑賞できるような、ゲーム形式の 鑑賞活動を実施する。	①-2 ビンゴを用いた鑑賞ワークシートを 使って、ビンゴを楽しみながら全ての作 品を鑑賞できる活動を実施した。			
	②-1 アンケートの回収率を上げられるよ う、やまなみ珈琲店の各テーブル席に紙 媒体のアンケートと、2次元コードのアン ケートを設置する。	②-1 やまなみ珈琲店の30席全てに、紙媒 体のアンケートと2次元コードを示した ケースを設置した。			
	②-2 アンケート結果を受けて、活動の改 善につなげたり、児童生徒の意欲につな げられるようにする。	②-2 やまなみ珈琲店のスタッフに協力を 要請し、「やまなみ賞」を導入した。賞 状を作成した。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
【学校目標】 4) 教職員の専門性及び授業力向上と働き方改革 【下位組織レベル】 ① 校内外において PBS(ポジティブ行動支援)を広げる取組を行う。	評価指標 ① 校内外の教員にアンケートを実施し、「PBS(ポジティブ行動支援)について理解を深めることができた」と80%以上から回答を得る。	評価指標の達成度 ① 校内で実施したアンケートにおいては、97%の教員から「理解を深めることができた」と回答を得た。巡回相談先の100%の教員から、「PBSを基本とした対応について理解できた」と回答を得た。	総合評価 (評定) A	引き続き、教職員の専門性の向上に努めてほしい。	
	活動計画 ①-1 「ひのみね PBSの日」を設ける。校内には掲示板で、校外には学校ホームページにて身近な一例を挙げたり、PBSを進めるポイントを伝えたりして情報提供する。	活動計画の実施状況 ①-1 7月より毎月「ひのみね PBSの日」を設定し、教員向けの校内電子掲示板でPBSに関する情報提供を行った。ホームページへの掲載時期は、年度後半になってしまったが、校外への情報提供も行った。	(所見) PBSについて具体的な事例を含むスライド資料を発信することで、全ての教員が情報を目にする機会を設定することができた。PBSについてある程度認知している教員にとっても、PBSについて再確認できるツールとして、理解を深めることに繋がったと思われる。巡回相談先においては、PBSの基本に触れ、対象児の行動について分析し、変容に繋がるような助言を行うことができた。今後も、児童生徒を取り巻く「チーム」として、教員同士が協力し、得た知識を児童生徒との関わりに活かしていけるよう継続していきたい。		
	①-2 児童生徒の気になる行動について、チームで関わり分析する「ちょこっと PBS ゆるりとーく」を行う。	①-2 2回実施し、参加者は合計10名程度であった。			
	①-3 巡回相談先で PBS についての研修を3回以上行う。	①-3 PBS の内容の研修は、2回実施した。対象児童生徒の行動に対する相談に応じる中で、PBS の視点からのアドバイスについては毎回行った。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 ① 学校生活における安心・安全な指導の継続と徹底を図る。	評価指標 ① 個人情報に気をつけながら、より迅速でより確実に緊急対応や医療的ケアができるよう実施体制を整える。	評価指標の達成度 ① 主治医指示書と個人カードを個人情報が見えないようにジッパー袋に入れ、児童生徒が携帯する環境を整えた。また、個々の緊急対応マニュアルの作成、緊急対応訓練等を計画的に行ったことで、緊急対応や医療的ケアをより迅速でより確実にできる実施体制を整えることができた。	総合評価 (評定) A (所見) 新年度が始まるまでに個人情報に配慮したジッパー袋等の準備を整え、始まってすぐに個人カードや緊急対応マニュアルの作成を行うことができた。児童生徒の緊急対応できる環境をより改良、改善できた。	安心・安全のため、体制を整える取組を継続して行っている。緊急対応訓練についても、定期的実施し、見直しを行うことは重要である。引き続き安全な学校づくりに努めてほしい。	課からの提案で様々な取組を行ってきたが、次年度は学校生活における安心・安全な指導、環境、医療的ケア等について、より多くの教員の意見を反映できるようにし、課題解決していきたい。 総務課と連携して災害発生時や災害発生後（3日間を想定）の生活において衛生管理や医療的ケアについての対応について検討したい。
	活動計画 ①-1 教員が個人カードを年度初めに作成し、主治医指示書と共にジッパー袋に入れて児童生徒が携帯できるよう環境を整える。	活動計画の実施状況 ①-1 個人情報が見えないよう、色画用紙を入れたジッパー袋を準備し、その中に教員が作成した個人カードと主治医指示書を入れ、車椅子やカートに吊す等して児童生徒が携帯できるよう環境を整えた。	年2回の緊急対応訓練を重ね、マニュアルや緊急対応に改善点を加えてきたことでスムーズに対応できるようになった。 今後も様々な課題に応じた研修する機会を設けるとともに、安心・安全な教育活動ができるよう、継続、対応していきたい。		
	①-2 個々の緊急対応マニュアルやアクションカード等の作成を呼びかけるとともに、緊急対応訓練を年に2回実施し、学校全体で緊急対応体制について協議し見直す。	①-2 個々の緊急対応マニュアルやアクションカード等の作成を呼びかけ、作成の必要な児童生徒全員分を作成することができた。緊急対応訓練を年に2回実施し、学校全体で緊急対応体制について協議し、改善点を加えた。			
	①-3 緊急対応を行った際には、振り返りの機会を必ず設け、学校全体へ情報を共有し、安全面への配慮について再確認を行う。	①-3 緊急対応を行った際には、振り返りの機会を設け、学校全体へ情報を共有した。また、今後の対応について協議するとともに、安全面への配慮について再確認を行った。			
	①-4 児童生徒の健康状態や安心・安全な環境等に課題が出てきた際には、学校看護師、養護教諭と連携・協働し、研修の機会を設ける。	①-4 日本赤十字社救急指導員による背部叩打法研修、危険予知能力を高める研修、排痰法等の研修を行った。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
情報 報 課	【学校目標】 2) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① ICT 活用に向けて教職員の理解を深め、児童生徒の実態に応じた活用をすることができる。	① 児童生徒がどのように ICT を活用すれば効果的か等の提案を行ったり、教員のニーズに応じた研修を行ったりするなどし、ICT に関するアンケートにおいて80%以上の肯定的な回答を得る。	① 教員に対して ICT に関するアンケートを行い、86%の肯定的な回答を得ることができた。	(評定) A	ホームページ等で、学校がどのような取組を行っているかを発信することで、障がいの有無に関わらず活動できる工夫を知ってもらえる機会になったり、理解啓発につながったりする。定期的に発信を行ってほしい。 次年度も各取組についての情報発信を、校務用サーバーの共有フォルダや学校ホームページを活用し行っていきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①-1 教員がどのように ICT を活用しているか活用事例一覧を作成し、情報提供することで、教員の ICT スキルの向上を図る。	①-1 外部入力機器等、ICT の活用事例を作成することができた。実践事例の共有や情報提供を通して ICT 活用について周知することができた。	(所見) 教員からの個々の相談には真摯に向き合い、児童生徒の実態に応じて視線入力装置やジョイスティックの活用等を提案することができた。また、iPad のアプリの使い方や不具合等、PC の写真や動画編集等の対応について、Microsoft Teams を通じて内容を情報課内で共有したり記録を残したりすることができた。 希望研修では、増加する教員用アカウントについて整理し、活用方法を提供することができた。 また、各課からの要望に丁寧に対応し、大型印刷機の整備や運用、学校ホームページを活用した情報発信等行うことができた。		
	①-2 年2回、教員対象に ICT を活用する際の困りごと等についてアンケートを行い、ニーズに応じた研修を行う。	①-2 アンケートを行い、教員のニーズに応じた研修（県域アカウントや keynote 等）を夏と冬に2回行うことができた。特に県域アカウントの理解を深めることができた。			
	①-3 アクセシビリティの設定など、タブレット端末を児童生徒の実態に応じた設定に調整する方法を教員に伝え、より効果的にタブレット端末を活用できるようにする。	①-3 教員端末間や児童端末間でのデータのやりとり方法等、教員の問い合わせに応じてアクセシビリティの設定やアプリを伝え、タブレット端末の効果的な活用を促すことができた。タブレット端末に関して必要に応じた情報発信ができた。			
	①-4 ICT 活用の事例として、Microsoft Teams による事務連絡の情報共有のモデルを示す。	①-4 課内で、Microsoft Teams を使って、事務連絡や情報共有を行うモデルを作ることができた。学校ホームページで活用モデルの発信ができた。			
①-5 ホームページや校内掲示板で ICT の活用事例を発信し、校内だけでなく家庭や児童生徒が利用している施設等にも情報提供し、学校の取組を校外でも取り組んでもらえるようにする。	①-5 学校ホームページに、ジョイスティックの活用事例について目的や場面、様子を明確にして掲載することができた。周辺施設に対して ICT 機器の設定や活用方法等を紹介することができた。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった